

5020 官能基の性質

官能基 (-COOR') は疎水性基ですが、ギ酸メチル (OHCOMe) あるいはエチルエステル (OHCOEt) は、親水性の CHO を含むため水に可溶です。その他のエステルは難溶性です。

エステルは、一般に芳香性を有し、香料として用いられるものが多くあります。さらに、有機化合物を溶かしやすいので溶剤として用いられます。

水中に放置すると徐々に、カルボン酸とアルコールに分解 (加水分解) します。この反応は酸やアルカリ溶液で加速されます。一般に、アルカリによる加水分解を **けん化 (saponification)** といいますが、特に高級脂肪酸のグリセリンエステルのアルカリによる加水分解を指すことが多いです。

エステルは電子吸引性の置換基で、ベンゼン環に置換した場合 (C_6H_5COOR)、SE 反応を不活性化し、メタ配向性となります。カルボン酸の OH の保護する方法の一つとしてエステルが用いられます。